



59.9.10発行  
(第1)  
津田顕彰会  
部報

## 十月三日は

# 津田左右吉博士の 誕生日です

東洋思想と日本の古代史を専門とした有名な歴史学者、また美濃加茂市名誉市民第一号に推戴された、津田左右吉博士は、明治六年（一八七三年）十月三日、現在の下米田町東栃井に生まれました。

津田家は代々、今尾（いまお）藩・竹腰（たけのこし）家に仕えた武士でしたが、明治維新の後、博士の父、津田藤馬（とうま）は今尾藩の領地であった東栃井村（現在の下米田町東栃井）に帰り、今の下米田小学校の前身である。文明義校（ぶんめいぎこう）の教師になりました。

その津田藤馬の長男に生まれたのが津田左右吉博士です。津田左右吉は四才にして、漢学（かんがく）を学び、五才で文明義校に入学、漢学や国文を学びま

した。そして当時、東京専門学校といつた今の早稲田（わせだ）大学を卒業し、中学校の教師となりましたが、明治四一年（一九〇八年）満鮮地理歴史調査室（まんせんちりれきしちようさしつ・満州や朝鮮の地理や歴史を調べるところ）に転職し、朝鮮の地理や歴史の研究生活に入りました。

そののちに母校の早稲田大学の教授となり、また東京大学でも教えるかたわら、「古事記」（こしき）や「日本書紀」（にほんしよき）の科学的な研究をすすめる中で「古事記及び日本書紀の研究」という、すぐれた研究論文を発表して行きます。そして左右吉博士は、その論文の中で神代（かみよ）の話は歴史的な事実がない事を明らかにして行きます。

その為に、天皇政治を批判したとされて出版法違反に問われその出版物が発売禁止にあってたりして行きます。戦後には早稲田大学の総長（そうちよう）に、推された事もありませんでしたが、津田左右吉博士は、自分は総長には、むいていないと断り、研究一筋の生活を送りました。

昭和二四年（一九四九年）には歴史研究に尽したことが認められ、文化勲章を受けられました。昭和三五年（一九六〇年）二月には、美濃加茂市名誉市民第一号に推挙せられました。しかし残念なことに、その翌年の昭和三六年（一九六一年）十二月四日に八八才で、この世を去られました。

私達の郷土が生んだ偉大な歴史学者、津田左右吉博士を何時々々逸も私達は語り伝えねばならないと思ひます。また津田左右吉博士について色々な事を話し合ったり、調べて見るのも大変意義深、ものだと思ひます。そして私達もこの偉大な博士津田左右吉先生を見習い、親子ともども色々な勉強に一歩助けみたいと思ひます。

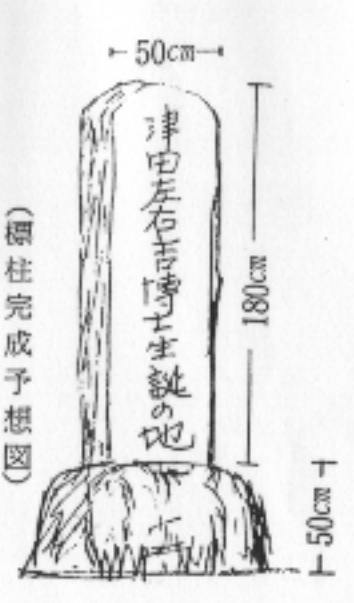
## ◎津田博士に関する資料の提供を!!

津田顕彰会では、私達の郷土が生んだ津田博士についての、資料や遺品の提供及び寄贈を、お願い致しております。どんな事でもよろしいから博士

に関するお話や、写真、遺品等がございましたら提供、寄贈若しくは貸与下さいます様お願い致します。

連絡先は下米田公民館内  
津田左右吉博士顕彰会へ  
電話二五―二七―四 又は有線五九三三

## ◎津田博士生誕の地に 目じるしを!!



(標柱完成予想図)

津田顕彰会では、我が郷土の誇り、名誉市民第一号津田博士の遺徳をしのび業績をたたえ、これ後の世迄も語り継がんとし、東栃井 井戸栄一さん宅入口に「生誕の地」を示す標柱を立てることに決定し、現在準備中です。博士の命日である十二月四日には、この標柱の除幕式を計画しています。津田博士についての色々御意見を、お待ち致しております。